

和歌山県北部における 雨乞い習俗の歴史民俗学的考察

Historical and Folkloric Study of Rainmaking Customs
in Northern Wakayama Prefecture

藤井弘章

FUJII Hiroaki

- ① 和歌山県における雨乞い習俗の先行研究
- ② 対象地域の概要
- ③ 筆者の雨乞い調査
- ④ 歴史史料にみる雨乞い
- ⑤ 雨乞いの民俗事例
- ⑥ 民俗事例からみた雨乞いの特徴
- ⑦ 雨乞いの主導者と社会的機能
- ⑧ 火振りと火焚き
- ⑨ 高野山の火の由来
- ⑩ 昭和中期以降の雨乞い

おわりに

【論文要旨】

筆者は20年以上にわたり和歌山県北部において調査をおこなってきたなかで、雨乞いの民俗事例を多数確認してきた。この地域では雨乞いに関する民俗的な報告、歴史史料も存在する。本稿では、これらの民俗事例、歴史史料などを統合することで雨乞い習俗の地域的な広がり、歴史的な変遷について検討した。この地域の民俗事例を概観すると、①神社・寺院・小祠での祈祷、②神仏・宝物を持ち出して祈祷、③川・滝での祈祷、④水にまつわる山での祈祷、⑤火振り・火焚き、⑥芸能（相撲）に分類できる。雨乞いをおこなう場合、①だけで雨が降らなければ、複数の雨乞いをおこなった。地域によって実施する内容や順序は異なっていた。実施主体は、近世には支配者などもあったが、近現代では村落共同体で実施するケースが多く、なかには村単位、郡単位で実施することもあった。近世には雨乞い儀礼には修験者などの宗教者が関与することがあったが、近現代では村人自身の手で実施する傾向が強まった。江戸時代から明治時代までは火振りがおこなわれることも多かったが、しだいに大掛かりな火焚きが広まっていったようである。火焚きには修験者が実施してきた柴燈護摩の影響が強く認められる。高野山の灯明から火をもらい火振り・火焚きをする習俗は、江戸中期に広まった可能性が高い。地域的な傾向としては、高野山・天野社に関係する修験者が関与した伊都地方、生石山周辺の宗教者・芸能者が関与した有田・海草地方、および和歌山市周辺、という3つのグループに大別できる。②、③のような呪術的と思われる雨乞いは昭和初期には衰退したが、火焚きなどは昭和中期まで盛んにおこなわれた。その後は用水の整備や稲作から果樹などへの栽培作物の転換などにより雨乞いがおこなわれることがほとんどなくなった。

【キーワード】 雨乞い、火焚き、高野山・天野社、生石山、修験者